



みんなの 笑顔のために



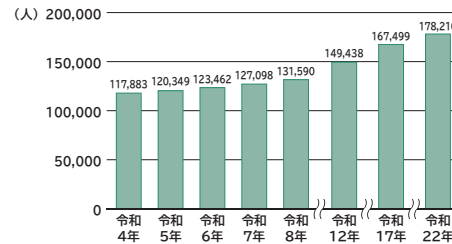
人生を支える「ふくしごと」

さまざまな人と向き合い、人生を支える「ふくしごと」。支援を必要としているのは高齢の方や障がいのある方など多岐にわたりますが、現在、担い手不足が課題となっています。ここでは実際に福祉の仕事をしている方へのインタビューなどを通じて、「ふくしごと」の仕事内容を紹介しつつ、その魅力をお届けします。 詳細 介護保険課 ☎211-2972、障がい福祉課 ☎211-2938

「ふくしごと」の担い手がますます必要に

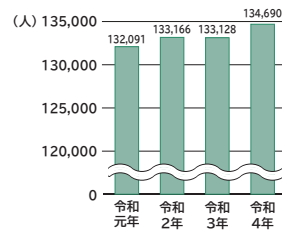
本市の要介護等認定者数は今後も増え続ける見込みです。障害者手帳所持者数についても令和元年から令和4年にかけて約2,600人増加しており、事業所向けに行った調査では、半数以上の事業所が目標とする職員数を確保できていないと回答しているなど、福祉職場における担い手不足が大きな課題となっています。

本市の要介護等認定者数の推移 ※令和4年は実績値、令和5年以降は推計値



本市の障害者手帳所持者数の推移

※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳



目標とする職員数を確保できているか



※令和7年度に行った市内の障がい福祉サービス事業者向けの調査結果

「ふくしごと」とは?

高齢や障がいなどを理由に、生活に支援を必要としている方に対し、心身の健康や生活の質の向上を目的として支援する福祉のお仕事。下記の例のように、直接生活を支援したり自立助長を促すなど、さまざまな仕事があります。

● 生活を支える

- ・ 自宅を訪問して食事や排せつなどの介助を行う
- ・ 施設に入居している方の生活全般の介助を行うなど



● 相談支援・自立の助長

- ・ サービスの利用計画などの相談に乗る
- ・ 発達に不安がある児童を支援する
- ・ 障がいや難病などにより、一般企業で働くことが困難な方が能力や適性などを生かして働ける場を提供するなど



夜間対応型訪問介護

在宅での生活を豊かに

50歳を過ぎてからでも始められます



社会福祉協議会 ナイトケアセンター
成田 朗子さん
年齢 59歳、仕事歴 8年

成田さんの1日

16時30分	出勤
16時45分	他の職員への申し送り業務
20時	利用者宅での訪問介護を開始
1時	休憩
3時	利用者宅での訪問介護を再開
8時	訪問終了
8時15分	各事業所への連絡など
9時30分	退勤



夜間に自宅を訪問し、排せつなどを介助

夜間帯（20時～翌朝8時）に定期的な訪問を行い、排せつ介助や移乗・移動介助などを行う「定期巡回サービス」と、夜間の緊急時に訪問し、転倒介助や排せつ介助などを行う「随時訪問サービス」を提供しています。私は管理職なので、他の職員への申し送りや各事業所への連絡業務もあります。定期訪問を担当する日は、1日に約8～10件の利用者宅を訪問します。

人のためになる仕事の魅力を感じた

50歳を境に、外に出て人のためになる仕事をしてみたいと思っ



いたところ、知人からこの仕事を紹介されたのが働き始めたきっかけです。もともと人とコミュニケーションを取ることが好きで、自分の性格にも合っていると感じ、介護の仕事を始めの決断をしました。

やりがいは信頼関係の構築

利用者さんと信頼関係を育んでいくことにやりがいを感じますね。利用者さんから「来てもらって本当に助かってます」などの言葉をかけてきて良かったと思います。年を重ねても慣れ親しんだ「ご自宅で過ごしたい」と思っている方を支援する仕事な

ので、豊かな在宅生活を送る手助けができていると感じたときはうれしく思います。

安心して仕事を続けられる

利用者さんごとに異なる介護の仕方を覚えて実際に介護できるようになるまでにはある程度の時間がかかりましたが、先輩職員が同行して教えてくれるなど、職員間でのフォローも手厚いため、安心して仕事を続けられています。また、体力的に大変と思う方もいるかもしれませんが、今は性能の高い福祉用具が普及しているので、身体への負担は軽減されています。

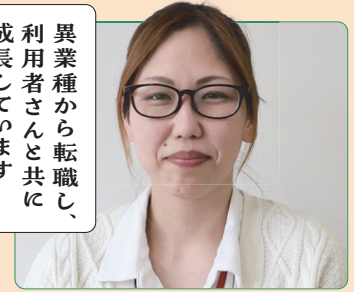
5つ始めてもキャリアアップできる

人と話すこと、関わるのが好きであれば、誰でも始められる仕事だと思います。私は50歳を過ぎてから介護の仕事を始めましたが、「介護職員初任者研修」を修了し、国家資格である「介護福祉士」も取得しています。周りには60、70代で活躍されている方もいて、何歳からでもキャリアアップしていける仕事であることを実感しています。また、自分自身や自分の親と同年代の方の介護をすることもあり、家族や今後の自分自身について考えるきっかけにもなります。若い方も含め、介護に興味のある方はぜひ働いてみませんか？

就労継続支援B型

自分らしく いられる場所の 提供を目指して

異業種から転職し、
利用者さんと共に
成長しています



社会福祉法人 愛和福祉会 ワークス翔
のびのび
野崎 沙紀さん
年齢 36歳、仕事歴 3年半

野崎さんの1日

- 8時30分 出勤
- 8時45分 作業の準備や引き継ぎ業務
- 9時 利用者さんたちを支援しながら共に作業に従事
- 12時 休憩
- 13時 利用者さんたちを支援しながら共に作業を再開
- 15時30分 作業終了
- 16時 1日の記録作成や翌日以降の計画立てなど
- 17時30分 退勤

就労に向けた作業を通じての支援

障がいなどを理由に一般企業で働くことが困難な方が、就労に必要な知識や能力を身に付けるための助言を、利用者さんと作業を共にしながら行っています。また、就職する準備が整ったときは、ハローワークと一緒にいき、利用者さんと企業との仲役になって就職活動を支援することもあります。

学生時代に持った興味を実現

この仕事に就くまではパティシエの仕事をしていましたが、子育てが一段落したときに「新しいことに挑戦したい」と思いました。学生の頃に福祉のことを学んだり養護学校の生徒と関わる機会が多く、福祉の仕事には元から興味が

ありました。また、自分が今まで動く中で感じてきたことを伝えられる福祉の仕事は、今のような事業所かと思いき、転職することを決めました。
利用者さんと共に成長できる
一般就労につながった方が事業所に顔を出し、「自分で収入を得て家族に恩返しすることができました」などと言葉をかけてくれたときは、これからも頑張ろうと思えますね。現在、27人の利用者さんがいて、それぞれの方たちの性格などを理解して接することを難しく思うこともありますが、毎日同じことの繰り返しではなく、状況に合わせて



利用者さんの意思を尊重することが大切

この仕事をする上では、利用者さんが何を思っているのか、どうしてほしいのかをしっかりと聞き取るのが大切です。どうしても自分の気持ちをうまく伝えられずに悩んでしまう方もいますので、本人の意思を尊重するように心がけています。

利用者さんの声



野崎さんは作業中、いつも優しく見守ってくれます。作業が大変なときは、手伝ってくれることもあり、とても助かっています。事業所の雰囲気も合っているので、今後も通所を継続したいです。

特別養護老人ホーム

残りの 人生を共に



この仕事をして
自分も前向きに
なりました

社会福祉法人 宏友会 特別養護老人ホーム
手稲リハビリテーションセンター
さむらあゆむ
木村 歩夢さん
年齢 23歳、仕事歴 3年

木村さんの1日 ※複数ある勤務形態のうちの1日

- 13時15分 出勤
- 13時30分 早番の職員からの申し送りの確認
- 14時 おやつや水分の提供
- 15時 排せつ介助
- 16時 休憩
- 17時 夕食の準備
- 17時30分 夕食の食事介助
- 18時 排せつ介助
- 19時 就寝介助
- 19時30分 1日の記録をまとめる
- 20時15分 エントリ内の巡回、ナースコール対応
- 22時 退勤



同僚の優しさに支えられ 自分自身も前向きに

休みの希望を聞いてもらえるほか、時間休暇制度もあるため、仕事とプライベートはしっかりと両立できています。緊急時の対応なども他の職員と連携しながら対応するので、1人で抱え込むこともありません。私はもともと落ち込みやすい性格でしたが、先輩方の優しい声かけなどのおかげで、心理的負担が軽減され、前向きな性格に変わったと感じています。

思いやりが大切

介助方法などの技術的なことは先輩からの指導や研修などを通して学べますが、やはり一番大切なのは「思いやり」だと思います。これからは1人1人の性格や身体状況、精神状況をくみ取って接することを意識しながら、この仕事を続けていきたいです。

いました。その後に進学した介護の専門学校で、実習先だったのが今私が働いている施設です。明るい雰囲気などが自分に合うと感じ、「ここで働きたい」と思いました。
やりがいは生き生きと過ごされている姿
自分が企画したレクリエーションに利用者さんとそのご家族が参加して楽しんでいる姿を見て、「久しぶりに家族で外出できてとても楽しかった」という内容のお手紙をいただいたりしたときはとてもうれしかったですね。普段は寝たきりの方でも、さまざまなレクリエーションに参加して生き生きと過ごさ

施設入居者の生活全般の介護

私の職場は、要介護度が高い方が多く入居しており、食事・排せつ・入浴介助、レクリエーションの企画などを行っています。レクリエーションは、施設内での運動や外出行事などを通して、利用者さんが少しでも元気に生活できるようにさまざまな企画を考えます。

中学生の頃に感じた 介護の大切さ

中学生の頃に祖母が認知症を患い、自宅で祖母の介護をする母親を見てその大切さを感じ、将来はそうした仕事に就きたいと思って



利用者さんの声



木村さんはいつも話を聞いてくれたり、楽しいレクリエーションを開催してくれたりして、とても感謝しています。この施設では、明るく生き生きと生活できていて、そうした時間を送れることをうれしく思います。

もっと知りたい!「ふくしごと」

多岐にわたって、多くの方の生活を支える「ふくしごと」。

どうやって働き始めたら良いのか、どんな職場環境なのかなど、みなさんが気になる項目について紹介します。

どうやって働き始めたら良い?

「ふくしごと」にはさまざまな職種があります。ここでは、訪問介護の仕事を紹介し、「まず何から手をつければいいのか」を紹介します。

※ここで紹介しているのはあくまでも一例です

●Aさん (40歳、無資格・未経験) の場合

ハローワークの職業訓練や介護事業所などで、介護職員初任者研修を受講、修了する

ハローワークや求人サイトなどで訪問介護の仕事を探し応募、就職

実際に訪問介護の経験を積みながら、国家資格の介護福祉士を目指す

●Bさん (高校2年生) の場合

高校卒業後、介護福祉社の学部などがある大学や短大、専門学校に進学

進学後、介護職員初任者研修を修了するほか、介護について学び、介護福祉士国家試験の受験資格を得る

在学中に介護福祉士の国家試験を受験し、合格を目指す

専門職として訪問介護を行う事業所などに就職する

誰もかふくしごとを目指すことができます



Q 資格や経験がなくても働ける?

A 職種によるものの、支援を受けられる場合が多い!

職種によって資格が必要な場合と、無資格や未経験でも働ける場合があります。職場によっては資格取得費用を支援してくれる場合も。また、働き始めた後も職場や市が行う研修に参加し、スキルアップを図ることができます。

Q 勤務形態は?

A シフト制もあれば、土・日曜、祝日休みの職場も!

職場によって日勤や夜勤などさまざまです。シフト制の職場もあれば、土・日曜、祝日が休みの職場も。あらかじめスケジュールが決まっている職場が多いので、まとまった休暇を取得しやすい環境が整っています。

Q 年齢や性別は関係ある?

A 誰でも始められる!

福祉用具などの技術が発展したことにより、体力の有無などは問われにくくなっているため、年齢を重ねても挑戦することが可能です。性別も関係なく、誰かの生活を支えたい方や人と関わることが好きな方であれば、誰でも始められます。



Q 身だしなみなど決まりはある?

A 自由な職場が多いです!

清潔で、人に不快感を与えなければ、髪型や化粧などが自由な職場が増えています。



年齢や経験を問わず挑戦でき、多様な働き方が選べる「ふくしごと」。利用者さんとのふれあいが自分の成長にもつながります。地域に暮らす方々の人生を支えるために、一歩踏み出してみませんか。

将来、「ふくしごと」をしてみませんか?

学生の方向けに、介護や障がい福祉の「ふくしごと」の魅力を紹介する冊子①「感謝されるシゴト、ケアワーカー。」と②「共に生きる私のしごと」を発行しています。将来「人の役に立ちたい」「人と関わる仕事がしたい」と考えている方におすすめです。

感謝されるシゴト、ケアワーカー。



共に生きる私のしごと



配布場所 ①は市役所3階介護保険課。中学1年生・高校1年生には7月上旬に学校で配布予定、②は市役所3階障がい福祉課

詳細 ①は介護保険課 ☎211-2972、②は障がい福祉課 ☎211-2938

児童発達支援

子どもたちの成長を見守る

働き始めて1年、子どもの「できた」を増やしています



社会福祉法人はるにれの里
児童発達支援センター さんりんしゃ
こたま しゅんすけ
小玉 峻輔さん
年齢 25歳、仕事歴 1年

小玉さんの1日

- 8時45分 出勤、ミーティング
- 10時 午前のクラスの子どもが登園。発達支援(遊びや外出など、状態に合わせて行う)
- 11時40分 昼食(介助や見守りをしながら、子どもと一緒に)
- 13時45分 午前のクラスの子どもが降園
後片付けや午後の活動の準備を行い、休憩
- 14時45分 午後のクラスの子どもが登園。発達支援
- 16時30分 午後のクラスの子どもが降園
後片付けと次の日の準備
- 17時30分 夕方のミーティング
- 17時45分 退勤

「程」を間近で見ると、これまで支援を続けてきて良かったと、とてもうれしくなります。

充実した研修制度で業務への理解を深めやすい

職員は年齢や性別はさまざまですが、体力に自信がなくても、職員同士で業務を分担しているのも、問題ありません。また、市内9カ所の児童発達支援センターでは療育を行う事業所などに対して研修会を行っています。私も参加しています。私は働き始めて1年ですが、研修制度が充実しているため、早くから業務への理解を深めることができました。

子どもに寄り添い準備することが大切

それぞれのお子さんやご家族のことをよく理解することが大切です。私は、お子さんの好きなものや関心があることに常にアンテナを立てることを心がけています。例えば恐竜が好きなお子さんであれば、おもちゃのブロックを使ったり、恐竜と一緒に作るなど、興味を持ちながら楽しく遊べるような工夫をしています。自分自身も楽しみながらお子さんと遊ぶことができ、そのための準備を積み重ねることができ、その仕事に向いているのではないかと思います。

やりがいは子どもの「できた」の瞬間

支援を開始したばかりだと、関係を築くことや意思疎通を図ることが難しい場面もあります。しかし、なかなか言葉を発せなかったお子さんが話すことができるようになったり、自分の考えをまとめられなかったお子さんが思いを言葉にできるようなったりと、できるようなる過程が、私にとってのやりがいの瞬間です。



きっかけは 大学生の頃に放課後等デイサービスでアルバイトをしていたとき、状態が不安定で親御さんと離れて暮らさなければならなくなったお

学生時代に抱いた感情

未就学児を対象に、着替えや食事など日常生活を送るのに必要なスキルを習得するための支援や、みんなで遊ぶ集団活動など、お子さんに合わせた発達支援を行っています。保健センターでの乳幼児健診などで必要性が認められたら、当施設のような療育機関を利用できます。